

香芝市議会報告

～ vol.1 ～

野口まさふみ

発行日：2024.8月発行

発行者：香芝市議会議員 野口まさふみ



野口まさふみ プロフィール 1968年7月生まれ(56才) 今年5月初当選

- 大阪府立生野高等学校 卒業
- 金沢大学工学部 卒業
- 中央大学法学部 在学中
- 商社勤務を経て個人会社を設立

- 元国会議員秘書
- 現在、会社役員、塾講師
- 香芝在住30年、家族は両親と妻
子ども3人はようやく独り立ち

市議会での初の質問 テーマは地域公共交通！

野口まさふみは病院や買い物などの移動の不便を追究しました

香芝市では以前より、「狭い道に公共バスもデマンドタクシーも来ない、不便だ」という声が多くありました。来ない地域では、例えば「家族がいても平日は仕事のため不在で日中の病院や買い物に行くのに苦労する」といったご不便があると思います。または「重たい荷物を持って帰るのがひと苦労」、「一時的に足にケガを負って、それまで感じなかった不便を感じるようになった」、あるいは「そろそろ免許の返納もしたいところだが、返納した後の不便を考えると決断できない」等々……。それぞれの悩みは解決されていないままです。そもそも今の時代、経済的事情から車を持たない方も増えています。

野口まさふみの地元、関屋・穴虫地区も狭い道が多い地域です。ほかにも自宅玄関前までデマンドタクシーが入ってこれない地域はまだあります。野口まさふみは今年5月の香芝市議選挙の時からこの事を重視し、当選の晩には改善を訴えることを決めていました。

当選後、間もなく開会された6月市議会、初めての一般質問。野口まさふみは右記の項目を質問しました。



質問の項目

- ①市民の「不便だ」という声、市の受け止めは？
- ②コミュニティバスの廃止基準、どうやって決まったのか？
- ③減便・廃止になった場合の代替手段をどう考えているのか？
- ④本市の地域公共交通について、市長の考えは？
- ⑤地域公共交通における運転手不足の解決策

今回の質問をするにあたって考えたのが、公共バスの新方針。『**利用者が一定数以下になったら停留所またはバスのルートを廃止する**』という内容でした。「廃止するだけではあかんやろう！」という思いです。廃止は誰でもできますが、その前に**新たな不便を生まない仕組みや取り組みがなされていなければなりません**。



市の答弁は不十分！野口まさふみは、地域公共交通の充実に継続的に取り組むことを決めました！

質問の結果ですが、市側の回答に不足を覚えました。

例えばデマンドタクシー。現行は軽自動車ではなく普通車サイズのため、狭い道の隅々まで運行できない要因の一つになっています。

野口まさふみは他市町の取り組みを徹底的に調べ、**実例として、軽自動車（しかも電気軽自動車）の運行方法もある事**を提案しました。自治体が公共交通を運行する際には道路交通法上の枠組みに沿うことが求められます。他町ではその枠組みの中の一つ、『**自家用有償旅客運送**』で**電気軽自動車のデマンドタクシーを実現されています**。



継続して訴えることが大事

皆さん、どう感じられましたでしょうか。野口まさふみは新米議員ですが、その野口まさふみだからこそ言えることがあります。**住民の皆さまの声をできるだけストレートに**。移動手段の充実は、住民皆さまの生活の利便性に直結します。

今回、初の一般質問のテーマには、重要度が高い「地域公共交通」を選びましたが、**今後も継続して訴えていきます**。そのためには住民の皆さまの多くの声が必要です。議員の仕事は住民の声を市に届けること。

野口まさふみはしっかり行動していきます。

また、市長も変わりました。地域公共交通の充実への考えを確認することも重要です。さらに、デマンドタクシーは特に午前中のニーズに100%対応できていないという情報も事前に入手したため、それらを総合的に網羅した質問となりました。

香芝市においても**積極的に国交省への届け出を検討し、アクションを起こすことが求められます**。

また、王寺町では数年前から、地域住民が運転手役を担う“無償型乗り合わせ小型移動車”を導入しています。野口まさふみも実際に現場視察に行き、取り組みの詳細をお聞きしました。今現在は実証実験ではなく、しっかり本格運行で継続されています。香芝市でも十分導入の検討が可能です。公助と自助の組み合わせを市と地域でともに考えることで、**持続可能な地域公共交通**が生まれます。

